

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

♡ことばの力 ♡からだの力 ♡こころの力

園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 平成28年10月4日



もうすぐ運動会！

いよいよ待ちに待った運動会の日が近づいてきました。

でも、天候が心配ですね。予定通り開催できることを願っています。またご協力をよろしくお願いいたします。

「子ども」扱いしない！

私は、長年小学生たちと関わってきましたが、「子どもが好き」とあまり言いません。「好き」以上の存在だからです。「懸命な生き様を見せる」、いつも驚かされたり、気づかされたりする、魅力的な存在です。

さて、今、二歳になった孫(男児)と「カード合わせ」に夢中です。「どこかな、どこかな？」と声をかけると、二枚の絵合わせを一人で完成させていきます。そのたびに、「すごい！」「賢い！」と言うと、自分で頭をよしと撫ぜています。ほほえましい光景です。



乳幼児期の脳の発達は著しく、目を見張るものがあります。2歳で、「新幹線」「電車」「汽車」「トラック」「バス」などの区別ができているのですもの。まだまだ言葉は拙く、新幹線を「～しえん」汽車を「～しゃ」と語

尾のみの発音、唯一バスだけ「バスッ！」が言えます。

先日も遊んでいる途中にママがお迎えに来たときのことです。「さあ、お迎えよ！」と言うと、両手を広げて、「待って！」とあまりにはっきり言うので驚きました。これまでは、自分の意志を「嫌！」で表現するのみでしたが、「待って！」を使いだしました。成長を感じた瞬間です。もちろん、待ちました。

「待ってって、言えるようになったよ！すごい！」ママに報告しました。



「親の後ろ姿で子は育つ」

スイスの教育家ペスタロッチは「親は子どもの最初の教師である」という言葉を残しました。

私たちは結婚して子どもを授かると、自然と親になります。その中で、親が親らしくなるためには、何よりもまず「なんのために子どもを育てるのか」「どんな大人になってほしいのか」ということを考えなければなりません。



子どもは親の後ろ姿から、自分に対する親の願いを感じ取って成長していきます。それは、親自身が自分の人生をどう生きるかを真摯に考えることが求められているといえるでしょう。

「親は子育てを通して、親になる」、まさに自問自答しながら、自省しつつ子どもとともに自分育てをしていかねばなりません。



私の場合、10月3日が親になった記念日です。そこから、自問自答の日々が始まりました。時には喜び、時には落ち込み、娘が思春期の頃が一番苦しかったです。子育ても仕事も自己嫌悪の連続でした。

ようやく、心して娘たちには向き合えるようになりました。親娘だから、家族だからと甘えすぎずに、特に日頃の「ことば」をていねいにと心がけるようにしています。思いは「まなざし」と「ことば」で十分に伝わります。

一番大切な存在、我が子が生まれた日のあの感動を更新しながら、これからも子育てに向き合っていきたいと思います。